

(14) 両足での立位

全体として両足での立位は、初回は「支えなしでできる」が9,399名(58.2%)、「何かにつかまえばできる」が5,524名(34.2%)、「できない」が1,233名(7.6%)であった。2回目は、「支えなしでできる」が9,514名(58.9%)、「何か支えがあればできる」が5,663名(35.1%)、「できない」が979名(6.1%)であった。3回目は、「支えなしでできる」が8,889名(55.0%)、「何か支えがあればできる」が6,005名(37.2%)、「できない」が1,262名(7.8%)であった。4回目は、「支えなしでできる」が8,108名(50.2%)、「何か支えがあればできる」が6,128名(37.9%)、「できない」が1,920名(11.9%)であった。

このように、両足での立位について何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回から2回目にかけては、減少していたが、3回目、4回目は、増加していた。要介護度別には、要支援と要介護1は、認定回数が増加するにしたがって、自立割合が減少していた。逆に、要介護5は認定回数が増加するにしたがって、自立割合が増加していた。要介護4についても3回目までは増加していた。要介護2と3は、初回よりも2回目のほうが自立が増えるが、3回から4回目では減少していた。非該当は、3回目まで減少するが、4回目は、自立割合は増加していた。

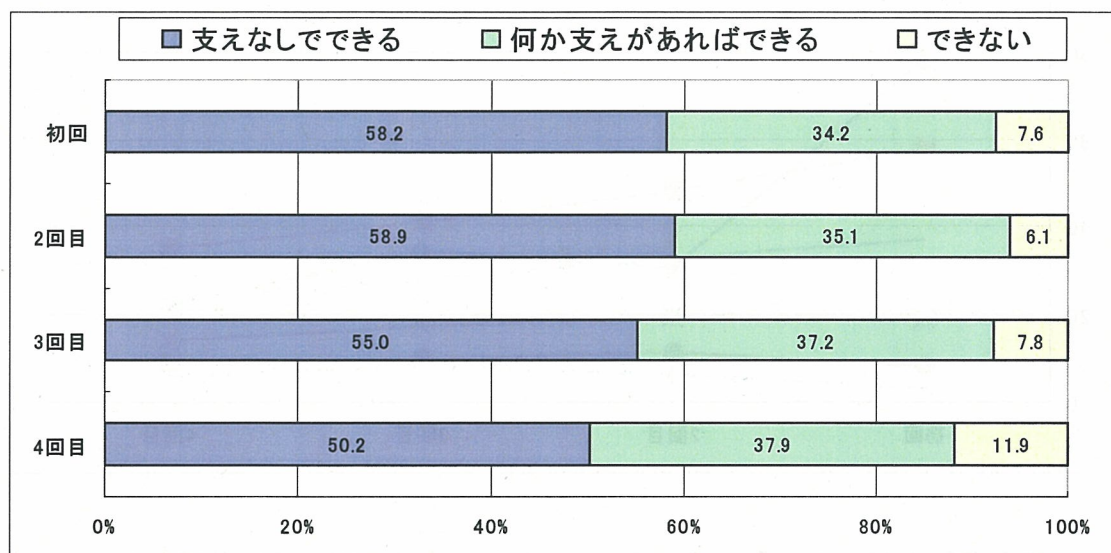


図 48 両足での立位 (N=16,156)

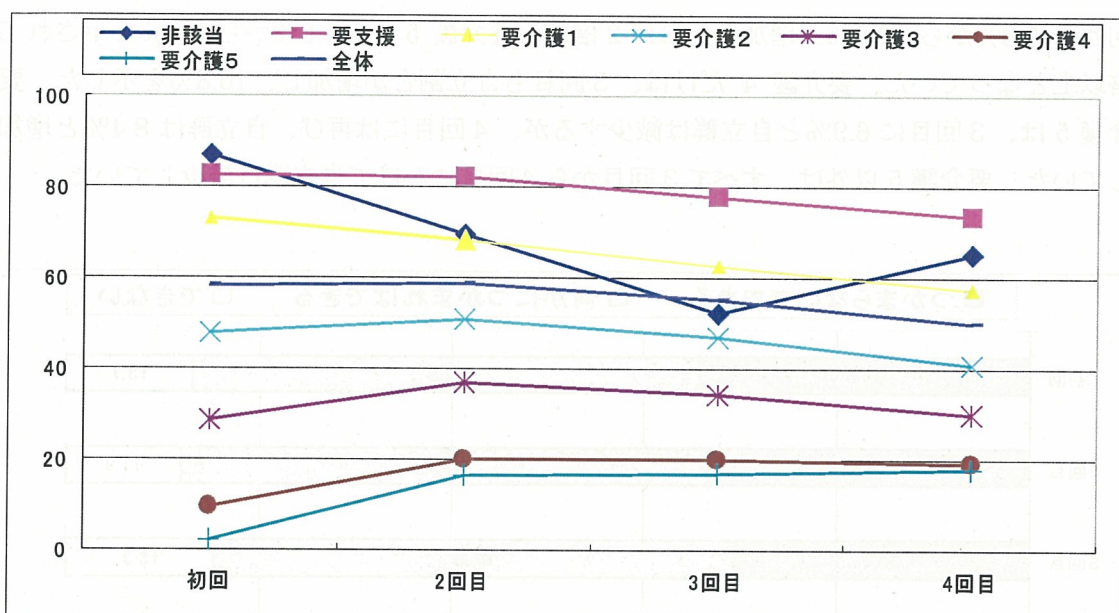


図 49 要介護度別両足での立位「支えなしでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 78 要介護度別両足での立位「支えなしでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	87	82.7	73.2	47.9	28.8	9.7	2.4	58.2
2回目	70	82.2	68.1	51.0	36.9	20.0	16.7	58.9
3回目	52.2	78.0	62.8	47.2	34.6	20.2	17.0	55.0
4回目	65.2	73.5	57.5	40.8	30.1	19.2	17.6	50.2

(15) 歩行

全体として歩行は、初回は「つかまらないでできる」が5,556名(34.4%)、「何かにつかまればできる」が8,477名(52.5%)、「できない」が2,123名(13.1%)であった。2回目は、「つかまらないでできる」が5,418名(33.5%)、「何かにつかまればできる」が8,816名(54.6%)、「できない」が1,922名(11.9%)であった。3回目は、「つかまらないでできる」が4,967名(30.7%)、「何かにつかまればできる」が8,722名(54.0%)、「できない」が2,467名(15.3%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が4,317名(26.7%)、「何かにつかまればできる」が8,557名(53.0%)、「できない」が3,282名(20.3%)であった。

これらの結果、歩行は、約7割において、「何かにつかまればできる」「できない」という介助が必要な高齢者であることが示された。このように歩行に何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は初回から4回目にかけて、漸次、増加していた。

要介護度別に歩行の自立群の推移をみると、要支援だけは、認定回数が増加するにしたがって、自立群が減少していたが、要介護1から5までのすべては初回よりも2回目のほうが自立群の割合が増加していた。この増加の割合は、要介護4、5に顕著で、要介護4は、

初回の 5.8%から 10.4%と増加し、ほぼ2倍に、要介護 5 は、1.5%から 8.1%と示され 5 倍以上となっていた。要介護 4 だけは、3 回目も自立割合が増加し、10.8%を示した。要介護 5 は、3 回目に 6.9%と自立群は減少するが、4 回目には再び、自立群は 8.4%と増加していた。要介護 5 以外は、すべて 3 回目から 4 回目にかけて自立群は減少していた。

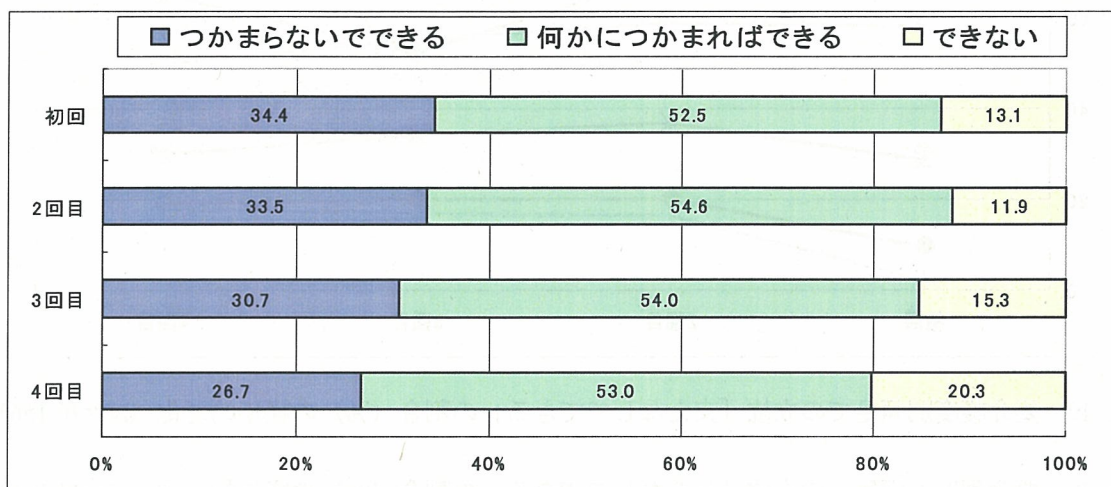


図 50 歩行 (N=16,156)

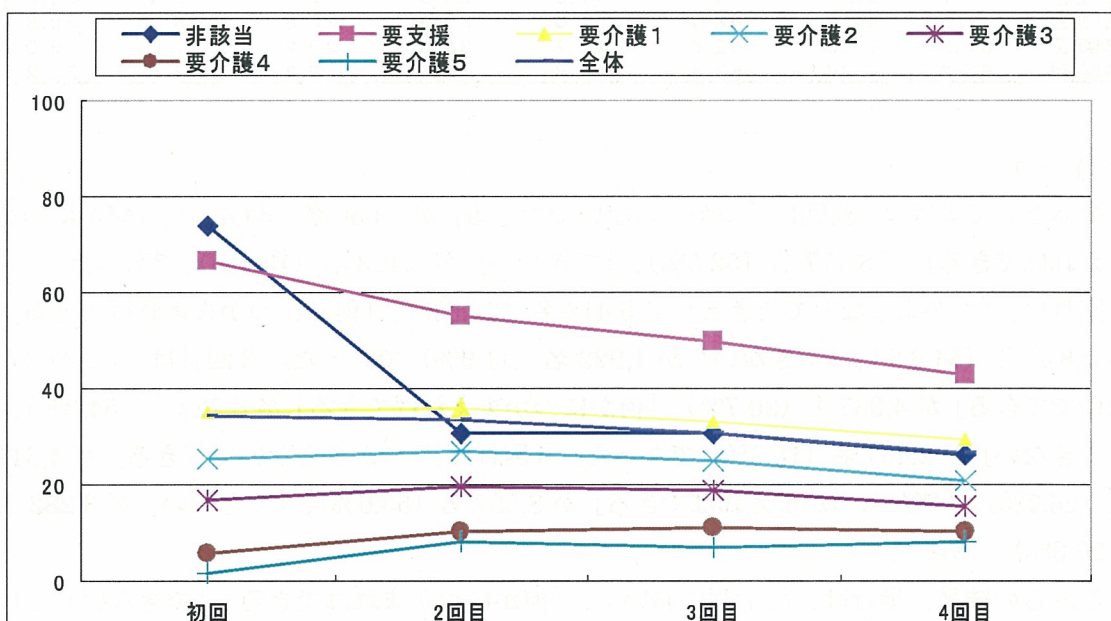


図 51 要介護度別歩行「つかまらないでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 79 要介護度別歩行「つかまらないでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	74	66.3	35.2	25.4	16.8	5.8	1.5	34.4
2回目	30	55.3	35.9	27.1	19.8	10.4	8.1	33.5
3回目	30.4	49.7	33.0	24.9	18.9	10.8	6.9	30.7
4回目	26.1	42.7	29.3	21.0	15.6	10.3	8.4	26.7

(16) 移乗

全体として移乗は、初回は「自立」が 11,083 名 (68.6%)、「見守り等」が 2,661 名 (16.5%)、「一部介助」が 1,541 名 (9.5%)、「全介助」が 871 名 (5.4%) であった。2 回目は、「自立」が 11,375 名 (70.4%)、「見守り等」が 2,708 名 (16.8%)、「一部介助」が 1,394 名 (8.6%)、「全介助」が 679 名 (4.2%) であった。3 回目は、「自立」が 10,955 名 (67.8%)、「見守り等」が 2,620 名 (16.8%)、「一部介助」が 1,629 名 (10.1%)、「全介助」が 952 名 (5.9%) であった。4 回目は、「自立」10,130 名 (62.7%)、「見守り等」が 2,626 名 (16.3%)、「一部介助」が 1,894 名 (11.7%)、「全介助」が 1,506 名 (9.3%) であった。

これらの結果、移乗は「見守り等」「一部介助」「できない」のように、何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回から 2 回目にかけて減少していた。しかし、3 回目、4 回目には、再び増加に転じていた。

要介護度別には、非該当から要介護 1 までは、自立割合は認定回数が増えるにしたがって減少していた。しかし、要介護 2 から 5 までは、すべて初回よりも 2 回目が自立割合が高かった。とくに要介護 4 は、初回の 4.4% から 24.6% へと増加し、5.6 倍を示した。要介護 5 は、さらに増加しており、初回の 0.6% から、18.8% へ増加しており、31.3 倍を示していた。要介護 4 と 5 は、3 回目も自立割合が増加し、要介護 4 は 28.2% に、要介護 5 は 24.8% を示していた。要介護 2 と 3 は、3 回目、4 回目と自立割合は減少していた。

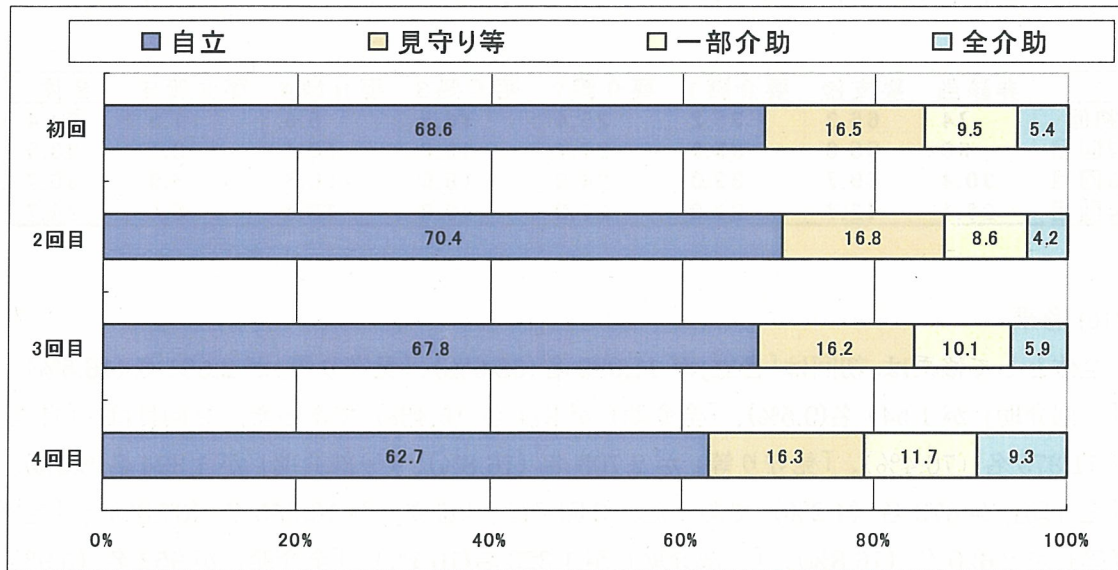


図 52 移乗 (N=16,156)

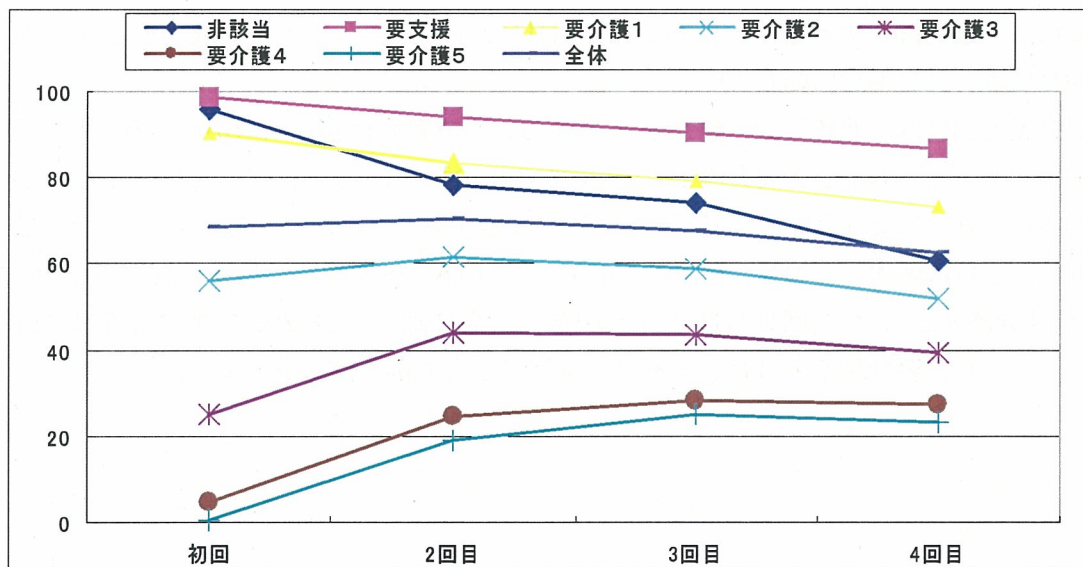


図 53 要介護度別歩行「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 80 要介護度別歩行「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	98.7	90.5	56.0	25.2	4.4	0.6	68.6
2回目	78	94.1	83.4	61.6	43.8	24.6	18.8	70.4
3回目	73.9	90.3	79.1	58.7	43.7	28.2	24.8	67.8
4回目	60.9	86.5	73.1	51.8	39.5	27.5	23.0	62.7

(17) 立ち上がり

全体として立ち上がりは、初回は「つかまらないでできる」が2,779名(17.2%)、「何かにつかまればできる」が11,967名(74.1%)、「できない」が1,410名(8.7%)であった。2回目は、「つかまらないでできる」が2,371名(14.7%)、「何かにつかまればできる」が12,685名(78.5%)、「できない」が1,100名(6.8%)であった。3回目は、「つかまらないでできる」が2,055名(12.7%)、「何かにつかまればできる」が12,584名(77.9%)、「できない」が1,517名(9.4%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が1,669名(10.3%)、「何かにつかまればできる」が12,279名(76.0%)、「できない」が2,208名(13.7%)であった。

このように、立ち上がりは、約8割が「何かにつかまればできる」「できない」と示され、自立度が低い項目であった。立ち上がりには何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回から4回目にかけて、漸次、増加する傾向が見られた。

要介護度別の立ち上がりの自立割合は、非該当から要介護2までは、認定回数が増えるにしたがって、漸次、減少していた。要介護3から5までは、初回から2回目にかけて自立割合が増加していた。とくに要介護5は、増加の割合は顕著で初回の0.5%から、2回目は3.0%と5倍となっていた。要介護5は、3回目も3.6%と増加しており、認定回数が増えて自立割合が3回目までは増加していた。要介護3、4は、3回目には減少し、4回目は、すべての要介護度において自立割合が3回目から減少していた。

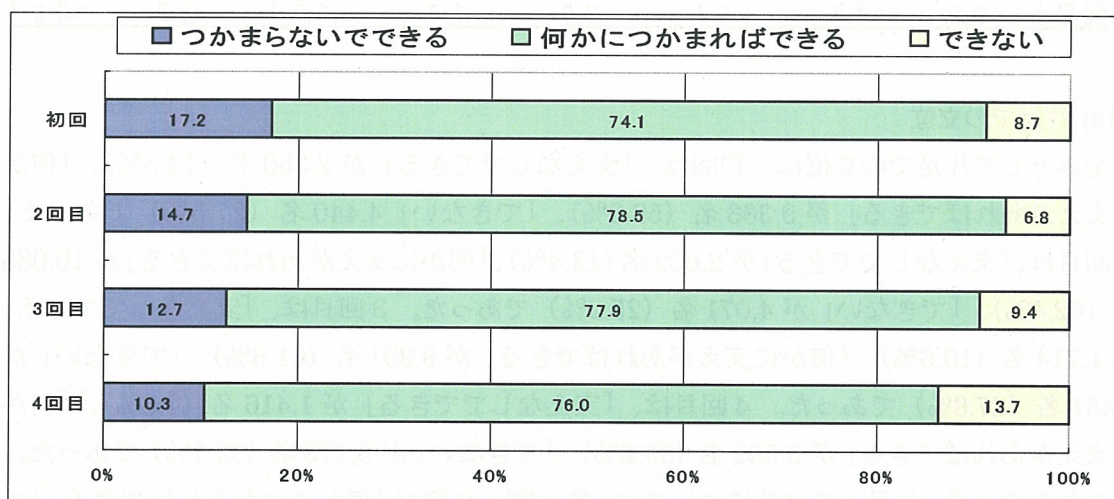


図 54 図 立ち上がり (N=16,156)

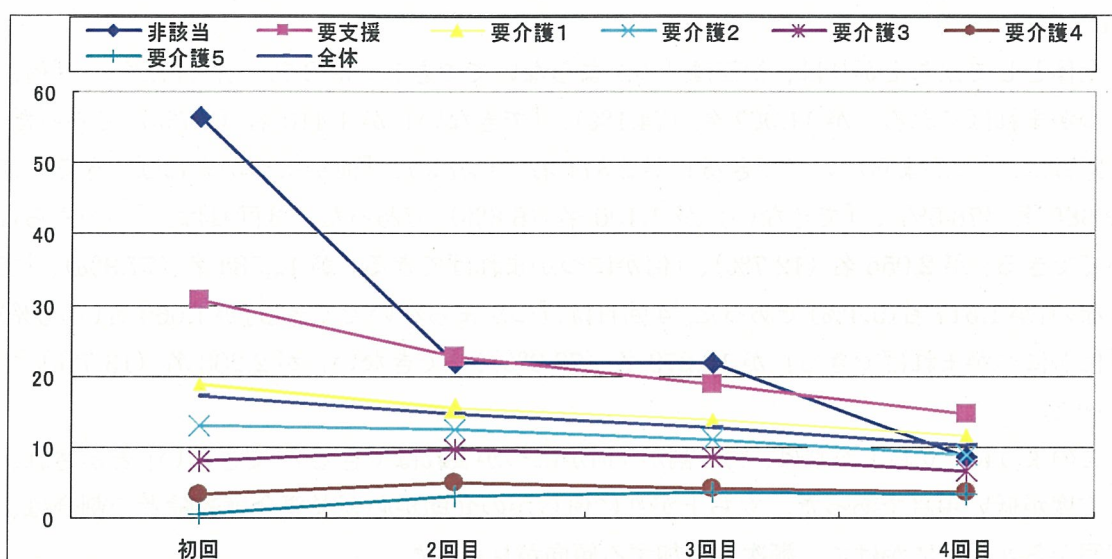


図 55 要介護度別立ち上がり「つかまらないうでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 81 要介護度別立ち上がり「つかまらないうでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	57	30.7	18.9	12.9	8.1	3.2	0.6	17.2
2回目	22	22.8	15.6	12.5	9.8	5.1	3.0	14.7
3回目	21.7	18.9	13.8	11.1	8.7	4.1	3.6	12.7
4回目	8.7	14.8	11.7	8.9	6.7	3.7	3.3	10.3

(18) 片足での立位

全体として片足での立位は、初回は、「支えなしでできる」が 2,350 名 (14.5%)、「何かに支えがあればできる」が 9,366 名 (58.0%)、「できない」4,440 名 (27.5%) であった。2 回目は、「支えなしでできる」が 2,002 名 (12.4%)、「何かに支えがあればできる」が 10,083 名 (62.4%)、「できない」が 4,071 名 (25.2%) であった。3 回目は、「支えなしでできる」が 1,714 名 (10.6%)、「何かに支えがあればできる」が 9,991 名 (61.8%)、「できない」が 4,451 名 (27.6%) であった。4 回目は、「支えなしでできる」が 1,416 名 (8.8%)、「何かに支えがあればできる」が 9,562 名 (59.2%)、「できない」が 5,178 名 (32.1%) であった。

これらの結果、片足での立位については、約 8 割～9 割が「何かにつかまればできる」「できない」で、自立割合が低い項目であった。また、片足での立位に、何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回から 4 回目まで、漸次、増加する傾向が見られた。

要介護度別には、非該当から要介護 1 までは、自立割合は認定回数が増えるにしたがって減少していたが、要介護 2 から 5 までの初回から 2 回目の自立割合は、すべて増加していた。とくに要介護 5 は、初回の 0.3% が 2 回目に 1.8% と示され 6 倍となっていた。

要介護 2、3 は、3 回目、4 回目と自立割合は減少していた。要介護 4 は、3 回目も自立割合は増加し、4 回目で減少していた。要介護 5 は 3 回目で減少するが、4 回目で再び増

加し、自立割合は初回が最も低く4回目が最も高かった。

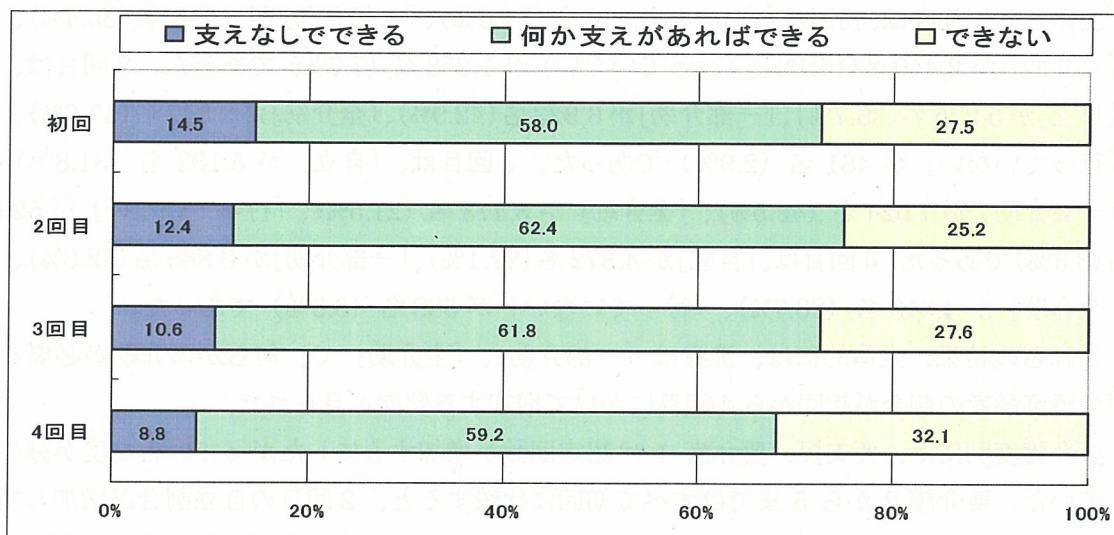


図 56 片足での立位 (N=16,156)

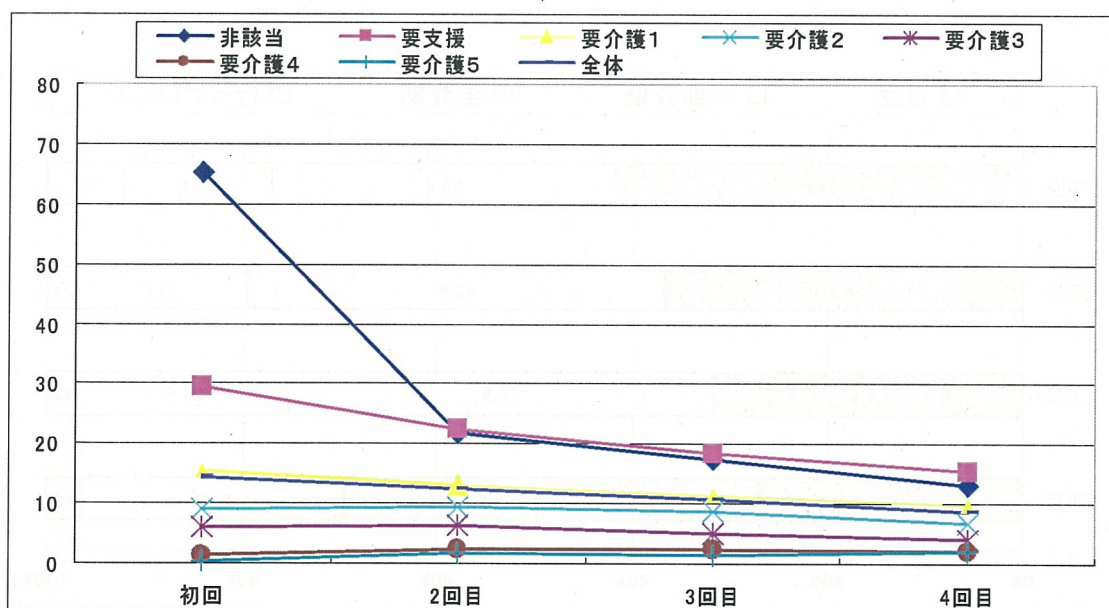


図 57 要介護度別片足での立位「支えなしでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 82 要介護度別片足での立位「支えなしでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	65	29.5	15.5	9.2	6.1	1.4	0.3	14.5
2回目	22	22.3	13.2	9.4	6.5	2.3	1.8	12.4
3回目	17.4	18.4	11.5	8.7	4.9	2.4	1.2	10.6
4回目	13.0	15.5	9.6	6.7	3.9	2.2	2.1	8.8

(19) 洗身

全体として洗身は、初回は「自立」が6,748名(41.8%)、「一部介助」が5,716名(35.4%)、「全介助」が2,440名(15.1%)、「行っていない」が1,252名(7.7%)であった。2回目は、「自立」が5,925名(36.7%)、「一部介助」が6,923名(42.9%)、「全介助」が2,847名(17.6%)、「行っていない」が461名(2.9%)であった。3回目は、「自立」が5,133名(31.8%)、「一部介助」が7,024名(43.5%)、「全介助」が3,473名(21.5%)、「行っていない」が526名(3.3%)であった。4回目は、「自立」が4,372名(27.1%)、「一部介助」が6,886名(42.6%)、「全介助」が4,318名(26.7%)、「行っていない」が580名(3.6%)であった。

これらの結果、全体的には、洗身は「一部介助」、「全介助」で、何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合が初回から4回目にかけて増加する傾向が見られた。

要介護度別には、要支援、要介護1は認定回数が増加するにしたがって、自立度が減少していた。要介護2から5まではすべて初回に比較すると、2回目の自立割合が増加していた。要介護2から3までは、要介護3から5まで、すべて自立割合が増加していた。とりわけ要介護5は、初回が自立割合は0であったが、2回目が1.5%、3回目が1.8%、4回目が3.6%と認定回数が増加するにしたがって、自立割合も増加していた。

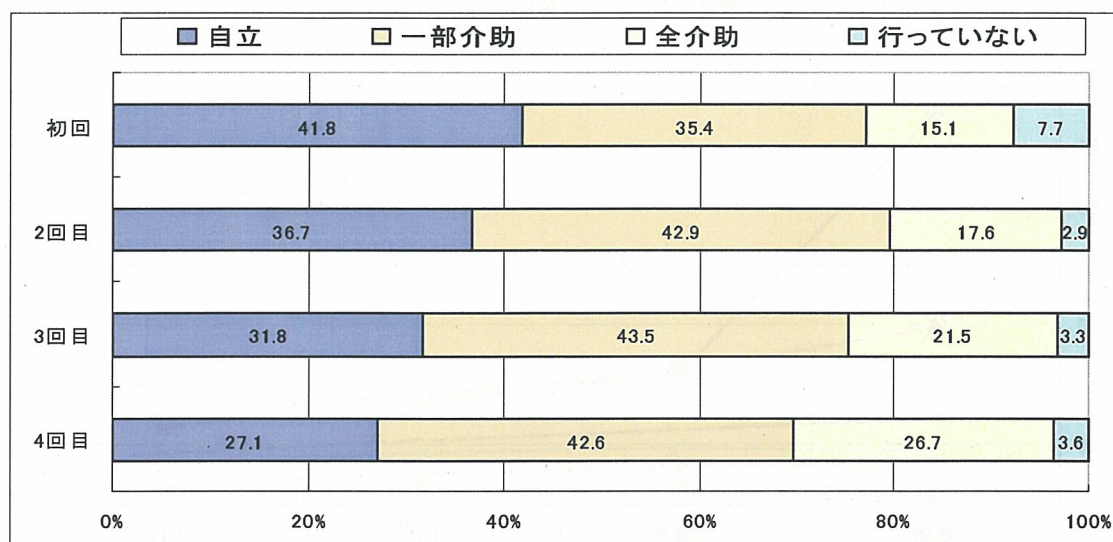


図 58 洗身 (N=16,156)

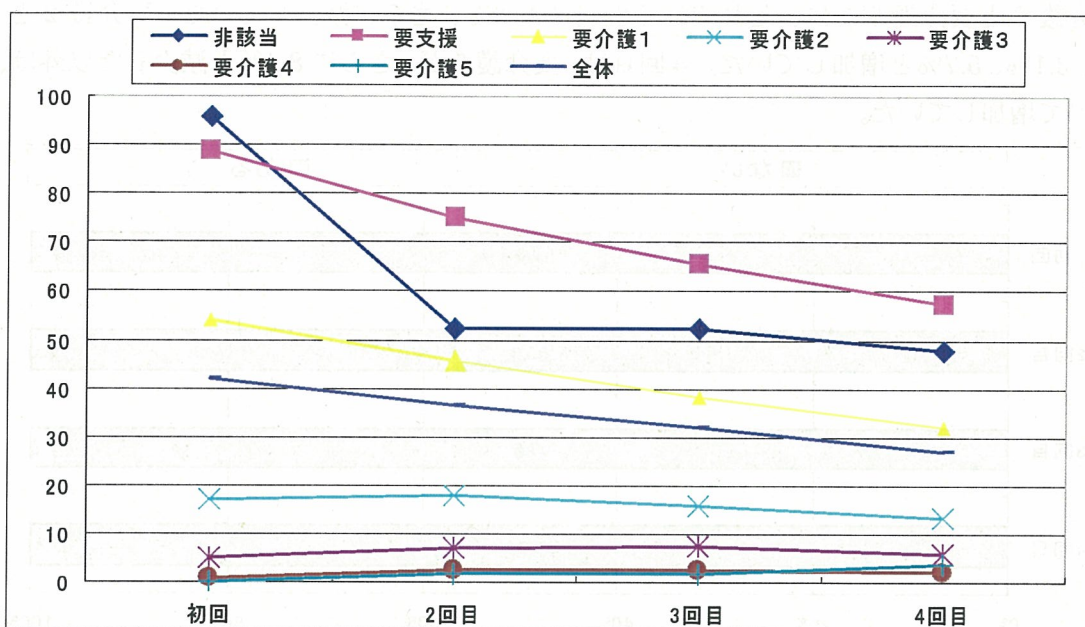


図 59 要介護度別洗身「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 83 要介護度別洗身「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	88.6	53.8	16.9	4.8	0.9	0.0	41.8
2回目	52	75.1	45.6	17.7	7.2	2.4	1.5	36.7
3回目	52.2	65.7	38.3	15.9	7.3	2.5	1.8	31.8
4回目	47.8	57.1	32.0	13.4	5.9	2.1	3.6	27.1

(20) じょくそう

全体としてじょくそうは、初回は「ない」が 15,726 名 (97.3%)、「あり」が 430 名 (2.7%) であった。2 回目は、「ない」が 15,828 名 (98.0%)、「あり」が 328 名 (2.0%) であった。3 回目は、「ない」が 15,760 名 (97.5%)、「あり」が 369 名 (2.5%) であった。4 回目は、「ない」が 15,613 名 (96.6%)、「あり」が 543 名 (3.4%) であった。

これらの結果、「あり」の割合は初回に 2.7%、2 回目に 2.0%と減少するが、3 回目に 2.5%と増加し、4 回目では 3.4%とさらに増加していた。

要介護度別には、非該当ではじょくそうはなく、要支援、要介護 1 では、認定回数が増えるにしたがって、「あり」の割合が増加していた。要介護 2 から 5 まででは、初回の「あり」の割合は、2 回目ですべて減少していた。要介護 2 は、2.5%から 2.2%へ、要介護 3 は、4.3%から 4.0%へ、要介護 4 は、9.2%から、5.2%へ、要介護 5 は、26.3%から 11.9%へと減少しており、要介護 4、5 の減少率は大きかった。2 回目から 3 回目の変化をみると、

要介護3と要介護5では、それぞれ3.6%、9.9%と、さらに減少していたが要介護2と4は、3.1%、5.7%と増加していた。4回目は、要介護5が、さらに8.4%と減少した以外は、すべて増加していた。

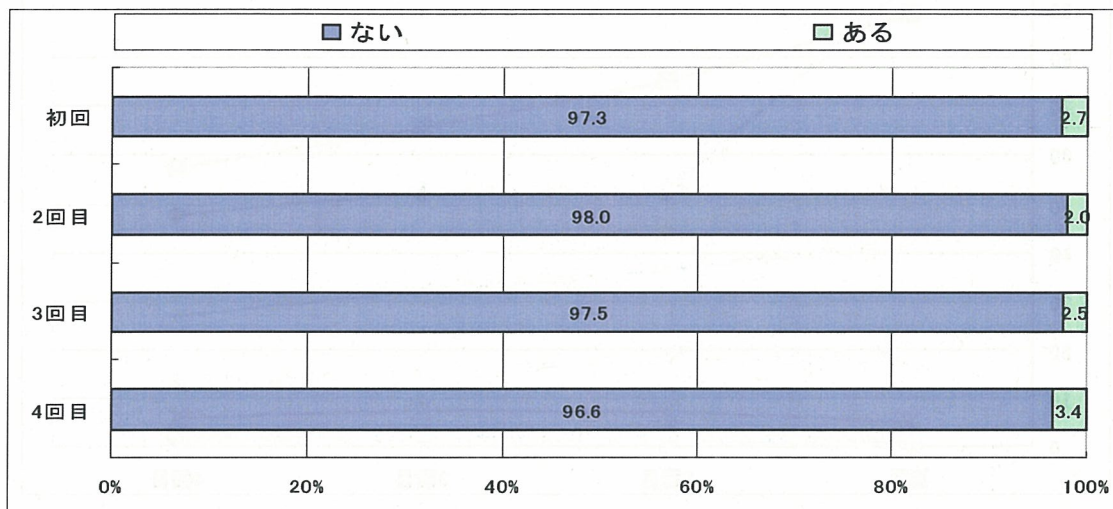


図 60 じょくそう (N=16,156)

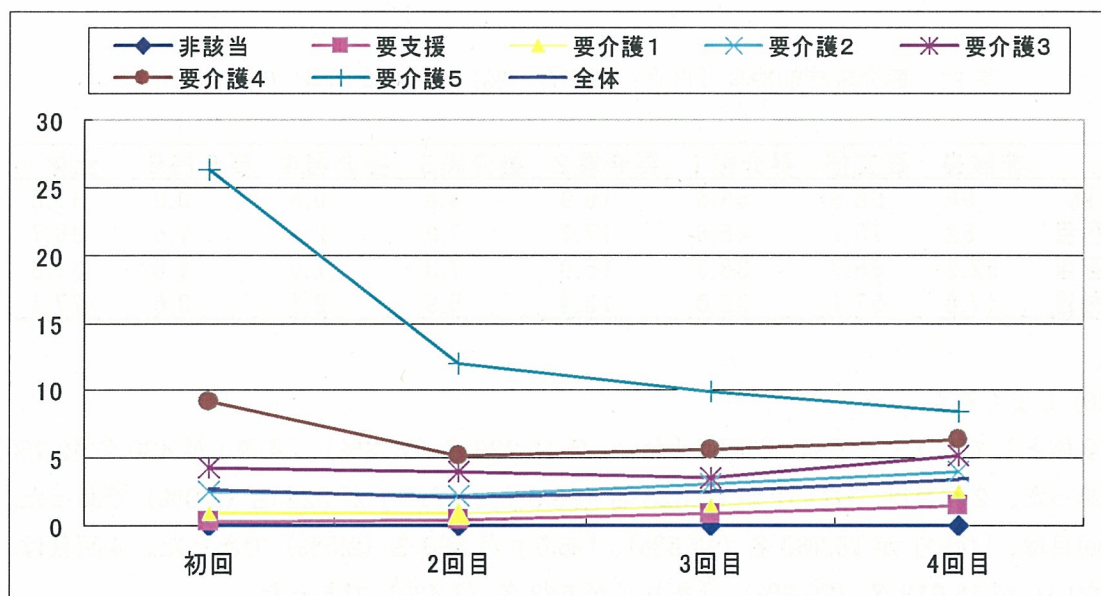


図 61 要介護度別じょくそう「あり」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 84 要介護度別じょくそう「あり」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.4	0.9	2.5	4.3	9.2	26.3	2.7
2回目	0	0.5	1.0	2.2	4.0	5.2	11.9	2.0
3回目	0	0.9	1.5	3.1	3.6	5.7	9.9	2.5
4回目	0	1.5	2.6	4.0	5.1	6.4	8.4	3.4

(21) 皮膚疾患

全体として皮膚疾患は、初回は「ない」が 13,295 名 (82.3%)、「あり」が 2,861 名 (17.7%) であった。2 回目は、「ない」が 13,091 名 (81.0%)、「あり」が 3,065 名 (19.0%) であった。3 回目は、「ない」が 12,799 名 (79.2%)、「あり」が 3,357 名 (20.8%) であった。4 回目は、「ない」が 12,509 名 (77.4%)、「あり」が 3,647 名 (22.6%) であった。

このように皮膚疾患がある割合は、認定回数が増加するにしたがって、初回 17.7%、2 回目 19.0%、3 回目 20.8%、4 回目 22.6%と漸次、増加していた。

要介護度別には、要介護 2 と 5 を除くと、認定回数が増加するにしたがって、皮膚疾患の割合は増加していた。要介護 2 は、2 回目に初回の 19.3%が 19.1%と減少していた。要介護 5 は、3 回目 29.6%から、4 回目 29.0%と減少していた。皮膚疾患がある割合は、要介護 4 と 5 を比較すると、要介護 5 のほうが初回から 2 回にかけての増加が大きく、要介護 4 が 0.9%増加したのに対し、要介護 5 は、3.9%も増加していた。

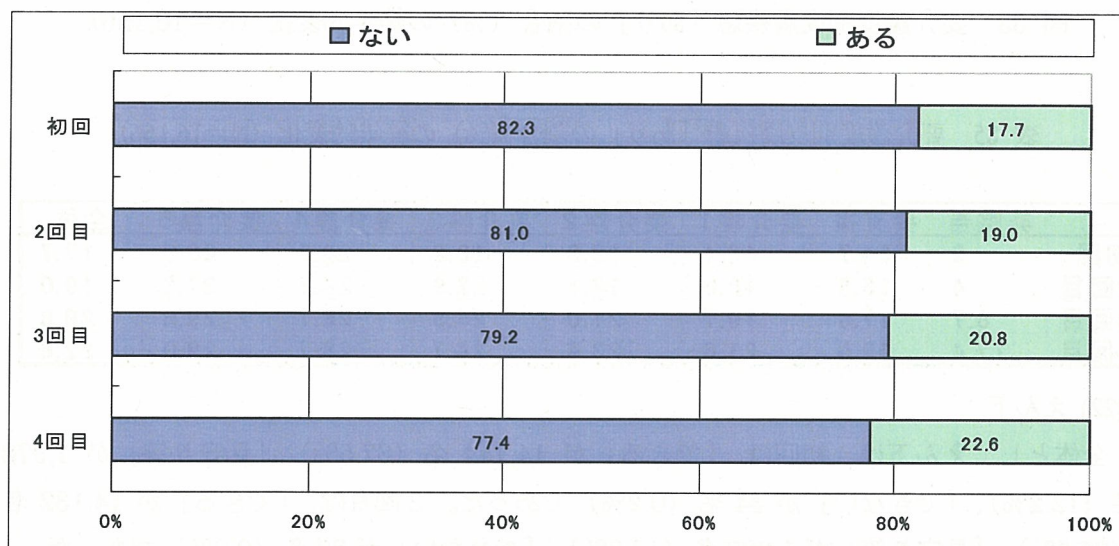


図 62 皮膚疾患 (N=16,156)

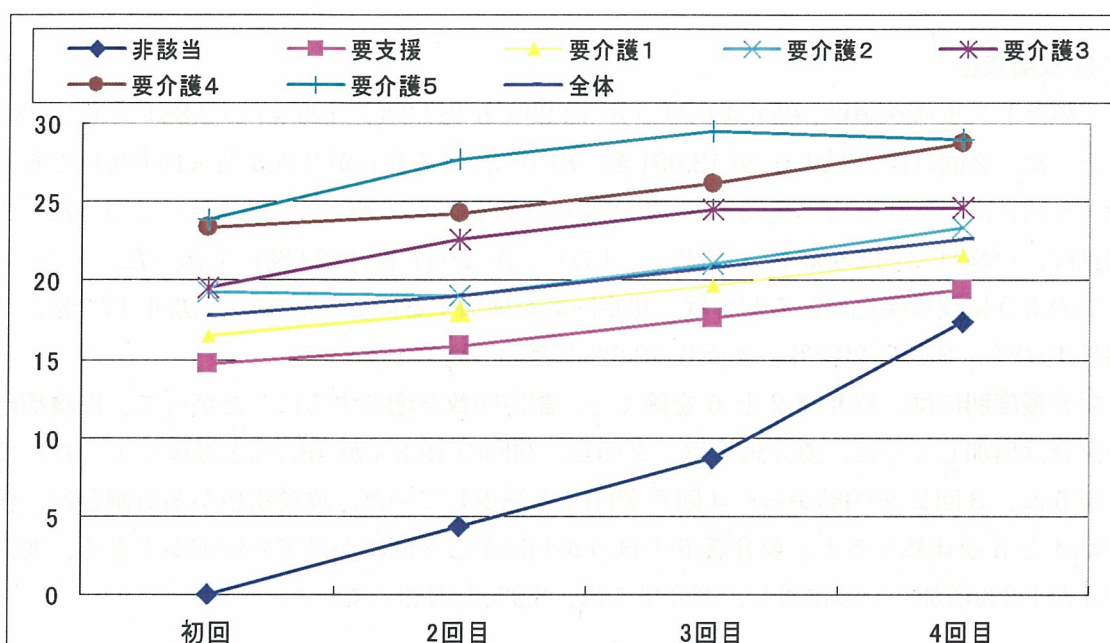


図 63 要介護度別皮膚疾患「あり」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 85 要介護度別皮膚疾患「あり」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	14.7	16.4	19.3	19.6	23.3	23.9	17.7
2回目	4	15.8	18.0	19.1	22.6	24.2	27.8	19.0
3回目	8.7	17.6	19.7	21.0	24.5	26.1	29.6	20.8
4回目	17.4	19.5	21.6	23.4	24.7	28.7	29.0	22.6

(22) えん下

全体としてえん下は、初回は、「できる」が 14,144 名 (87.5%)、「見守り等」が 1,978 名 (12.2%)、「できない」が 34 名 (0.2%) であった。2 回目は、「できる」が 14,132 名 (87.5%)、「見守り等」が 1,987 名 (12.3%)、「できない」が 37 名 (0.2%) であった。3 回目は、「できる」が 13,912 名 (86.1%)、「見守り等」が 2,199 名 (13.6%)、「できない」が 45 名 (6.3%) であった。4 回目は、「できる」が 13,367 名 (82.7%)、「見守り等」が 2,656 名 (16.4%)、「できない」が 133 名 (0.8%) であった。

これらの結果、えん下ができる割合は、初回から 2 回目では変化がないが、2 回目から 3 回目、3 回目から 4 回目にかけて、「見守り等」「できない」の要介護高齢者の割合が増加する傾向が見られた。

要介護度別には、要支援から要介護 4 までは、えんげができる割合は認定回数が増加するにしたがって減少していた。しかし要介護 5 は、初回が 53.7% の自立であったのに対し、2 回目は 71.9% と自立割合が大きく増加していた。ただし、3 回目、4 回目は、71.0%、68.7% と減少していた。

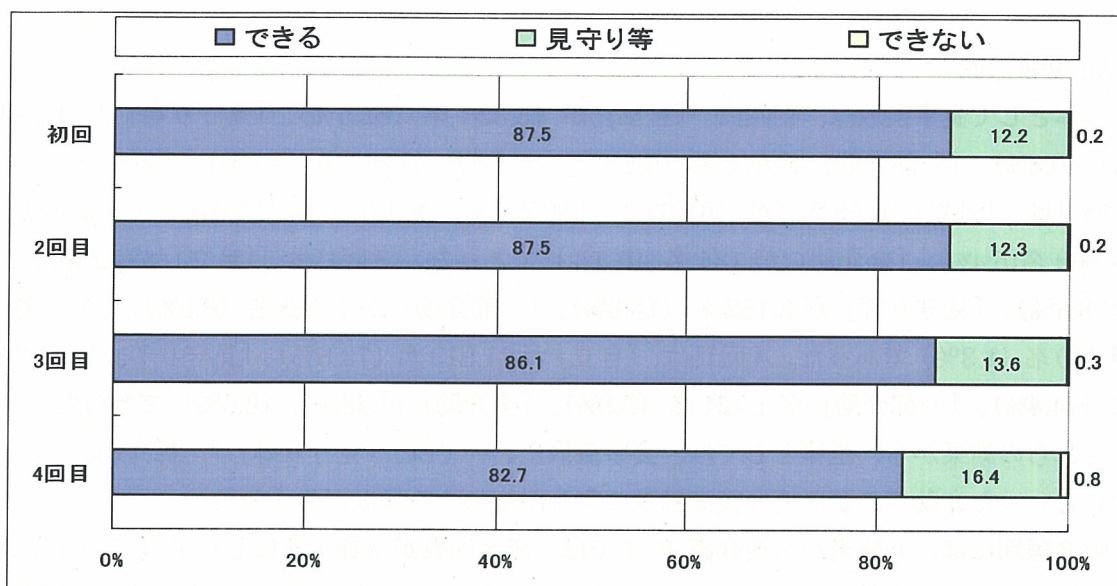


図 64 えん下 (N=16,156)

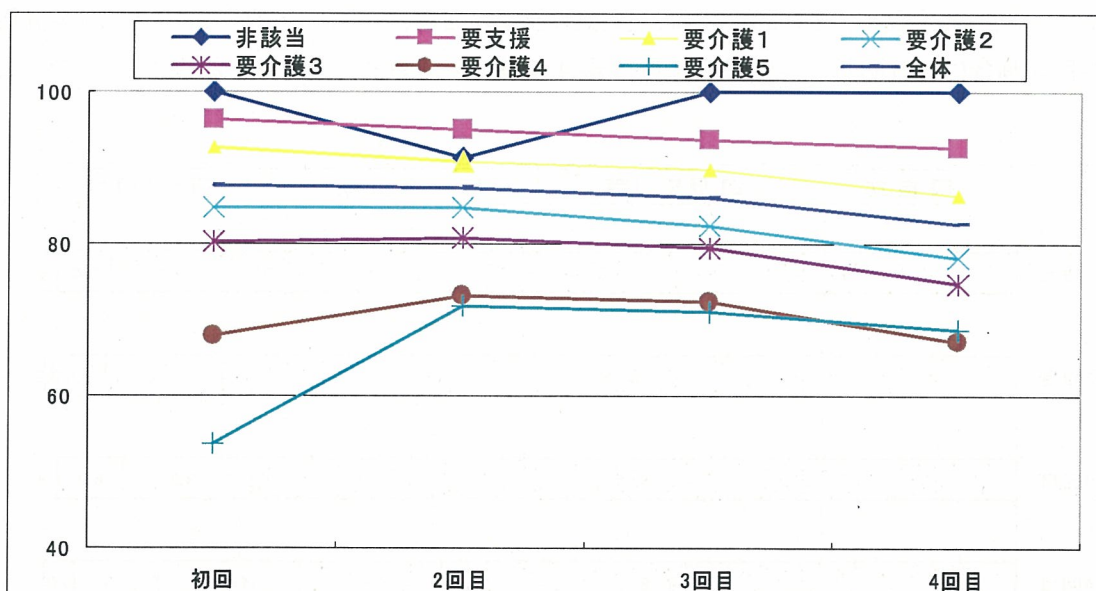


図 65 要介護度別えん下「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 86 要介護度別えん下「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	96.2	92.5	84.7	80.3	67.9	53.7	87.5
2回目	91	95.1	90.7	84.8	80.8	73.1	71.9	87.5
3回目	100	93.8	89.8	82.5	79.4	72.4	71.0	86.1
4回目	100	92.8	86.3	78.3	74.8	67.2	68.7	82.7

(23) 食事摂取

全体として食事摂取は、初回は、「自立」が 13,328 名 (82.5%)、「見守り等」が 1,743 名 (10.8%)、「一部介助」が 878 名 (5.4%)、「全介助」が 207 名 (1.3%) であった。

2回目は、「自立」が 13,218 名 (81.8%)、「見守り等」が 1,935 名 (12.0%)、「一部介助」が 869 名 (5.4%)、「全介助」が 134 名 (0.3%) であった。3回目は、「自立」が 12,698 名 (78.6%)、「見守り等」が 2,152 名 (13.3%)、「一部介助」が 1,096 名 (6.8%)、「全介助」が 210 名 (1.3%) であった。4回目は、「自立」が 11,919 名 (73.8%)、「見守り等」が 2,334 名 (14.4%)、「一部介助」が 1,421 名 (8.8%)、「全介助」が 482 名 (3.0%) であった。

これらの結果から、全体としては、食事摂取においては、「見守り等」「一部介助」「全介助」といった介助が必要な要介護高齢者の割合が増加する傾向が見られた。

要介護別には、非該当から要介護 2 までは、認定回数が増加するにしたがって、自立が減少していた。要介護 3 から 5 では、初回から 2 回目に、それぞれ、63.3%から 66.3%、40.0%から 52.5%へ、10.4%から 47.8%へと自立が増加していた。要介護 5 においては、2回目は初回の自立割合の 4.6 倍を示していた。要介護 5 は、3回目も 53.1%とさらに増加していた。要介護 3、4 においては、自立割合は 3回目、4回目と減少していた。要介護 5 の自立割合は、3回目、4回目共に要介護 4 よりも、それぞれ 1.1%、2.9%、高くなっていった。

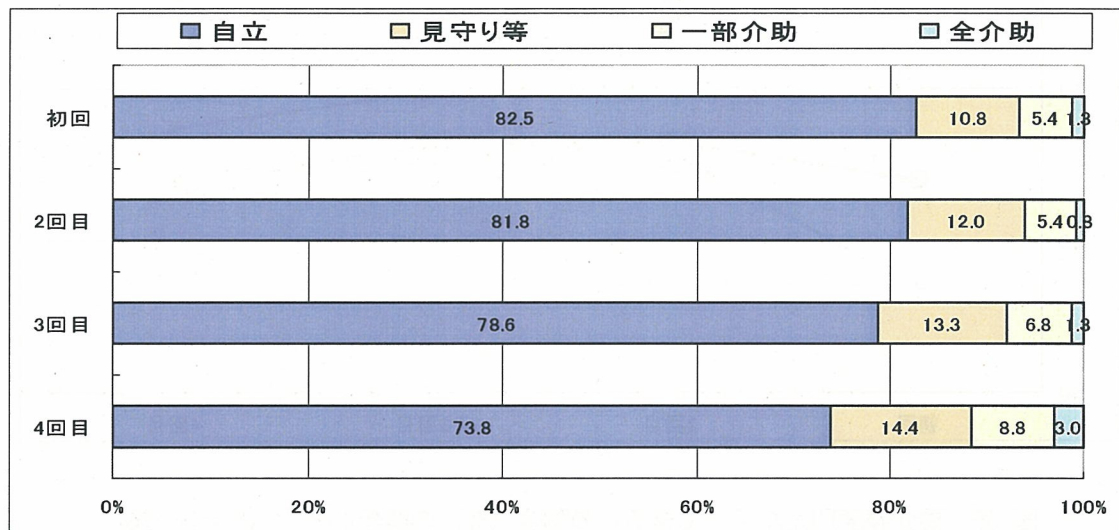


図 66 食事摂取 (N=16,156)

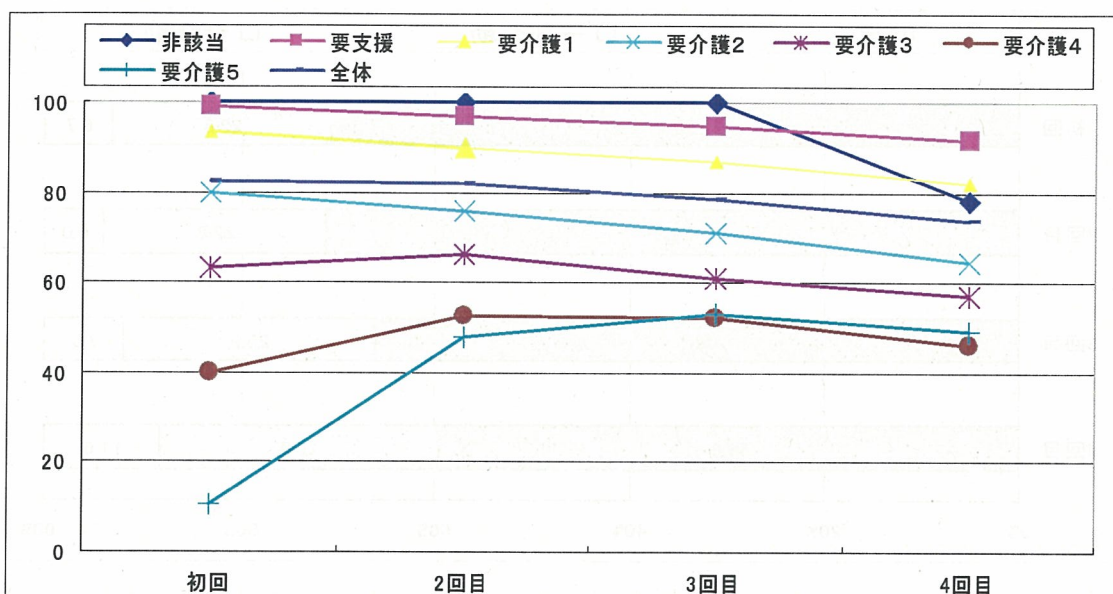


図 67 図 要介護度別食事摂取「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 87 図 要介護度別食事摂取「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	99.1	93.5	79.8	63.3	40.0	10.4	82.5
2回目	100	96.9	89.8	75.8	66.3	52.5	47.8	81.8
3回目	100	94.8	86.7	70.9	61.1	52.0	53.1	78.6
4回目	78.3	91.6	81.9	64.7	57.0	46.1	49.0	73.8

(24) 口腔清潔

全体として口腔清潔は、初回は「自立」が 11,418 名 (70.7%)、「一部介助」が 3,655 名 (22.6%)、「全介助」が 1,083 名 (6.7%) であった。2 回目は、「自立」が 11,508 名 (71.2%)、「一部介助」が 3,681 名 (22.8%)、「全介助」が 967 名 (6.0%) であった。3 回目は、「自立」が 10,683 名 (66.1%)、「一部介助」が 4,191 名 (25.9%)、「全介助」が 1,282 名 (7.9%) であった。4 回目は、「自立」が 9,621 名 (59.6%)、「一部介助」が 4,660 名 (28.8%)、「全介助」が 1,875 名 (11.6%) であった。

これらの結果から、口腔清潔は「一部介助」「全介助」といった何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回から 2 回目にかけて減少するが、3 回目、4 回目にかけて増加し、3 回目から 4 回目に介助を必要とする割合が高くなっていった。

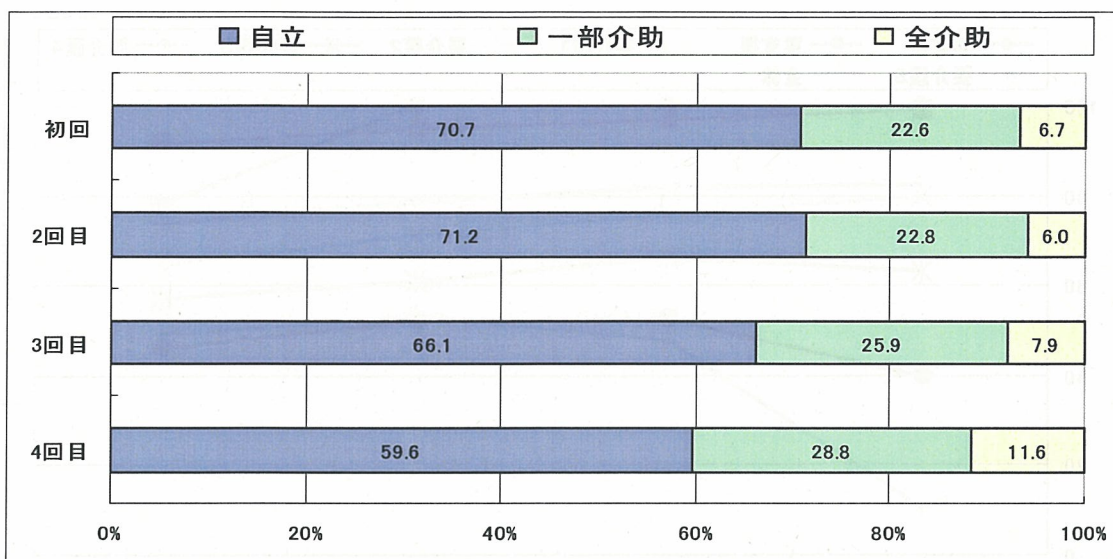


図 68 口腔清潔 (N=16,156)

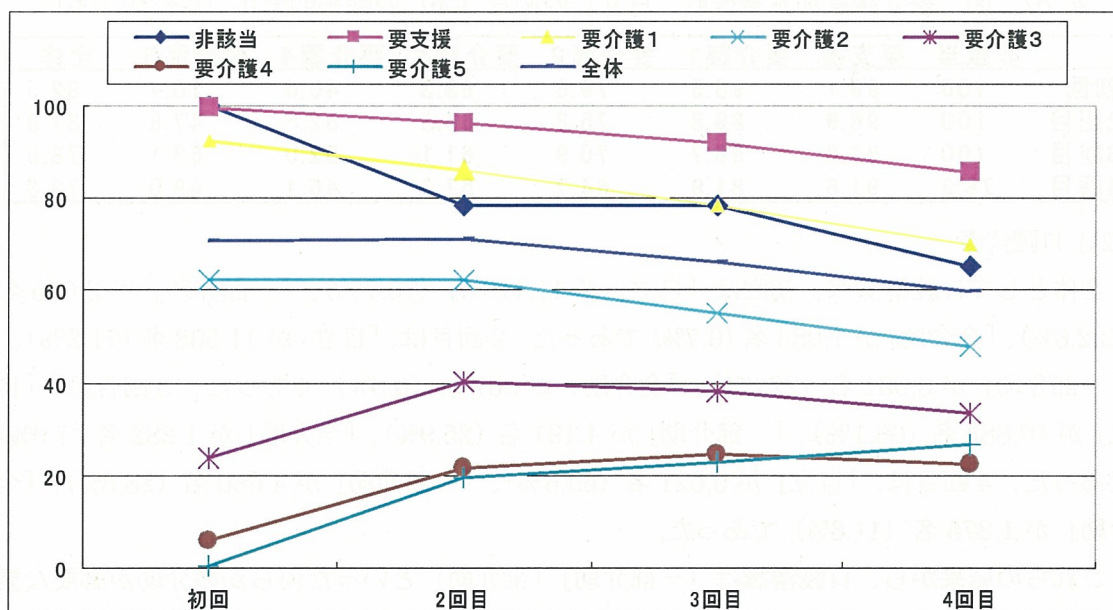


図 69 要介護度別口腔清潔「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 88 要介護度別口腔清潔「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	99.4	92.2	62.1	23.9	5.9	0.3	70.7
2回目	78	96.2	85.9	62.1	40.1	21.7	19.4	71.2
3回目	78.3	92.1	78.5	55.0	38.1	24.5	23.0	66.1
4回目	65.2	85.7	70.0	48.0	33.3	22.5	26.6	59.6

(25) 洗顔

全体的に洗顔は、初回は「自立」が 11,577 名 (71.7%)、「一部介助」が 3,846 名 (23.8%)、全介助が 733 名 (4.5%)であった。2回目は、「自立」が 11,777 名 (72.9%)、「一部介助」が 3,700 名 (22.9%)、「全介助」が 697 名 (4.2%)であった。3回目は、「自立」が 10,950 名 (67.8%)、「一部介助」が 4,207 名 (26.0%)、「全介助」が 999 名 (6.2%)であった。4回目は、「自立」が 9,930 名 (61.5%)、「一部介助」が 4,608 名 (28.5%)、「全介助」が 1,618 名 (10.0%)であった。

これらの結果、洗顔の介助が必要な「一部介助」「全介助」の割合は、初回から2回目にかけて減少するが2回目から3回目、そして4回目と増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護 1 までの自立割合が、認定回数が増加するにしたがって減少していた。逆に、要介護 5 においては、認定回数が増加するにしたがって自立割合も増加していた。とくに2回目は、初回の 0.9%から 20.0%と増加し、22.2 倍を示していた。3回目も 24.8%、4回目も 27.5%と自立割合は、要介護 4 よりも高くなっていた。

要介護 2 から 5 までは、初回よりも2回目のほうが自立割合は高くなっていた。3回目まで、自立割合が増加するのは、要介護 4 で、初回 5.4%から、2回目は 24.6%と 4.6 倍となり、3回目も 26.3%と増加していた。要介護 3 か、初回の 25.5%から、2回目 43.3%と大きく増加していたが、3回目は 40.3%、4回目は 35.3%と減少していた。要介護 2 では、初回 63.9%、2回目 64.4%と増加するが、2回目以降は徐々に減少していた。

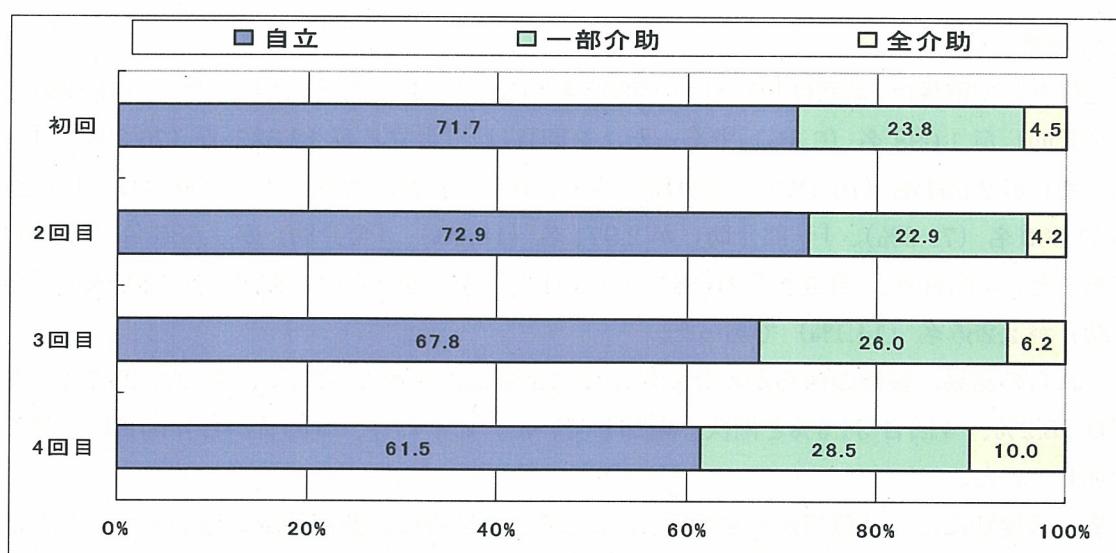


図 70 洗顔 (N=16,156)

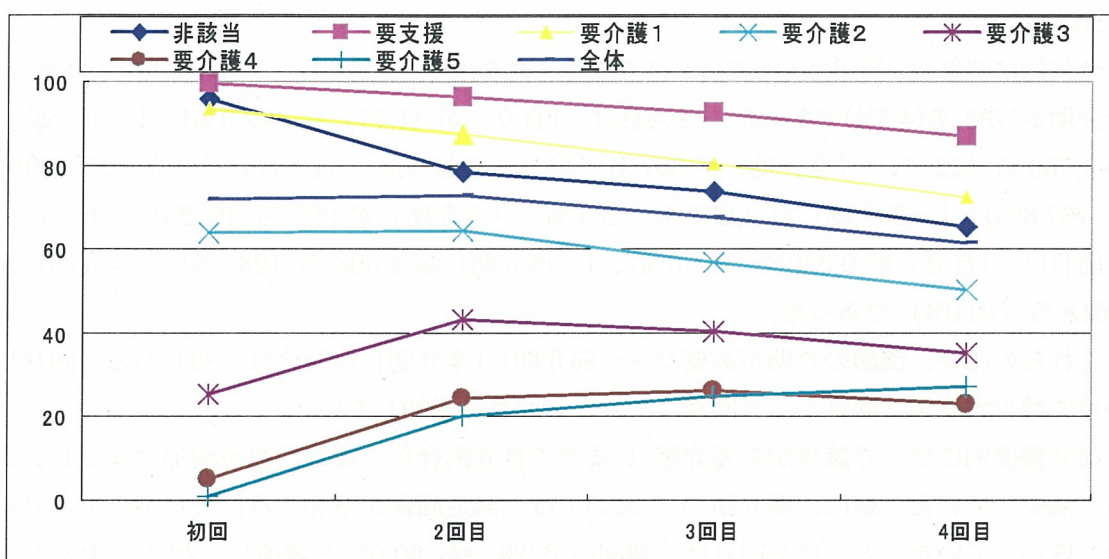


図 71 要介護度別洗顔「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 89 要介護度別洗顔「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	99.5	93.4	63.9	25.5	5.4	0.9	71.7
2回目	78	96.5	87.3	64.4	43.3	24.6	20.0	72.9
3回目	73.9	92.5	80.4	56.8	40.5	26.3	24.8	67.8
4回目	65.2	86.9	72.3	50.4	35.3	23.2	27.5	61.5

(26) 整髪

全体として整髪は、初回は「自立」が 12382 名 (76.6%)、「一部介助」が 2,676 名 (16.6%)、「全介助」が 1,098 名 (6.8%) であった。2 回目は、「自立」が 12,332 名 (76.3%)、「一部介助」が 2,694 名 (16.7%)、「全介助」が 1,130 名 (7.0%) であった。3 回目は、「自立」が 11,600 名 (71.8%)、「一部介助」が 2,971 名 (18.4%)、「全介助」が 1,585 名 (9.8%) であった。4 回目は、「自立」が 10,611 名 (65.7%)、「一部介助」が 3,260 名 (20.2%)、「全介助」が 2,285 名 (14.1%) であった。

これらの結果、整髪の何らかの介助が必要な割合は、初回 23.4%で、2 回目 23.7%、3 回目 28.2%、4 回目 34.3%と漸次、増加していた。とりわけ、3 回目から 4 回目に大きく増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護 2 までの自立割合は、認定回数が増加するにしたがって減少していた。要介護 3 から 5 までは、2 回目が初回よりも自立割合は増加していた。要介護 3 は、3 回目、4 回目は自立割合が減少し、要介護 4 は、3 回目まで自立割合が増加していた。要介護 5 は、初回から 4 回目まで認定回数が増加するにしたがって自立割合が増加していた。要介護 4 と 5 の初回から 2 回目への増加の割合は高く、要介護 4 は、初回の 11.3%が 2 回目 31.9%と 2.8 倍へ、要介護 5 は、初回の 2.4%が 12.8 倍となっていた。

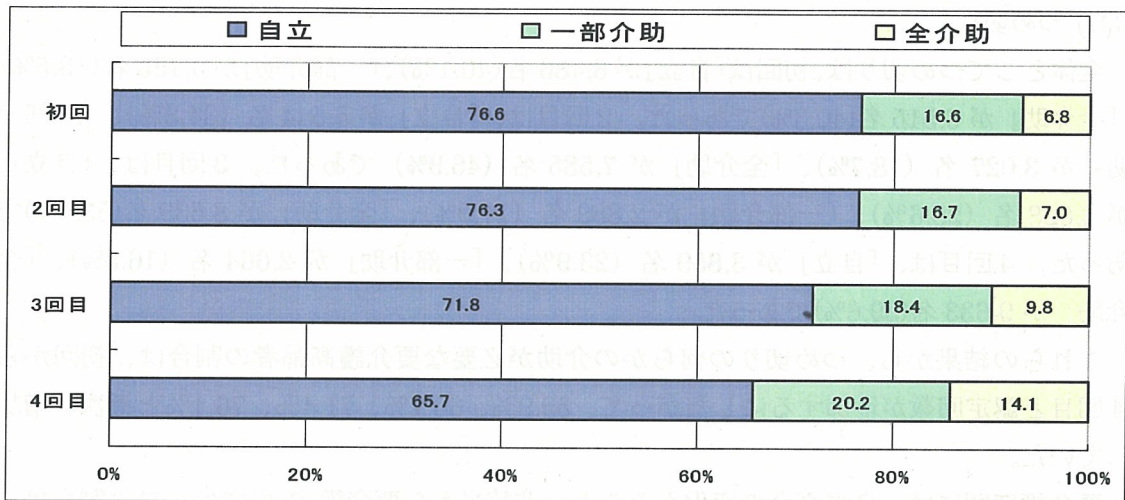


図 72 整髪 (N=16,156)

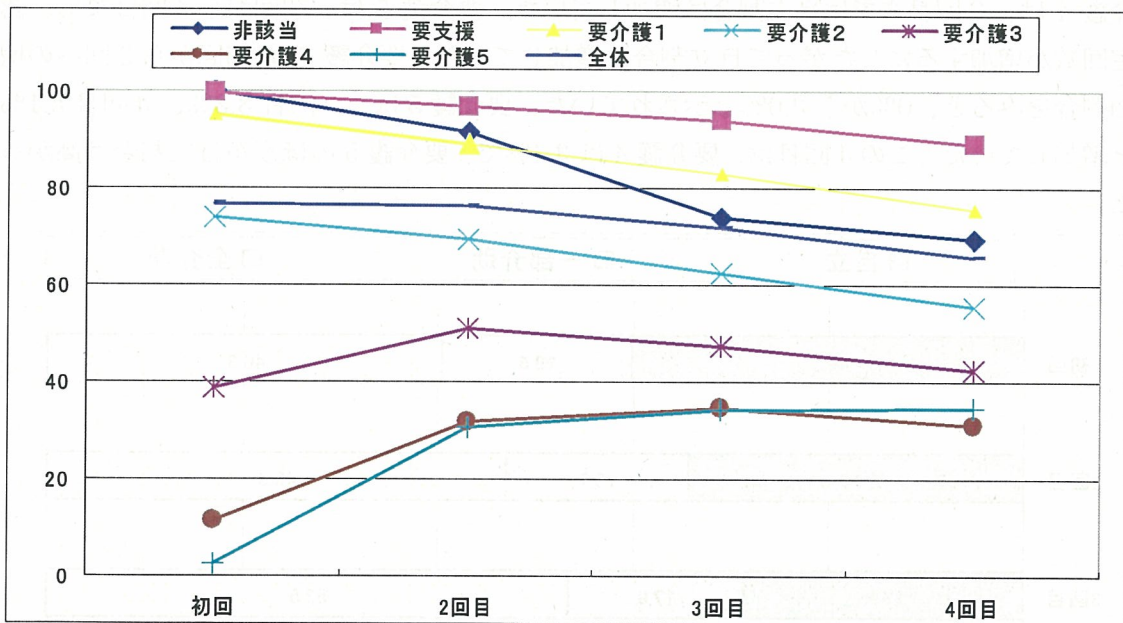


図 73 要介護度別整髪「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 90 要介護度別整髪「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	99.6	94.9	73.9	38.9	11.3	2.4	76.6
2回目	91	96.8	88.8	69.6	50.9	31.9	30.7	76.3
3回目	73.9	93.8	82.9	62.6	47.2	34.6	34.3	71.8
4回目	69.6	89.0	75.4	55.4	42.4	31.1	34.6	65.7